

II — A — 9

慢性肺気腫に対する柴朴湯の臨床効果と気道過敏性に対する影響

国立療養所長崎病院内科

○下田照文，谷口哲夫，安岡 彰，久保 進，福嶋弘道，藤田紀代，中富昌夫

〔目的〕成人気管支喘息患者へのツムラ柴朴湯エキス剤の長期投与は，臨床症状及び気道過敏性の改善に対して有用であると報告されている（江頭他）。一方，慢性肺気腫患者も程度の差こそあれ，気道過敏性の亢進が認められ喘息様因子が存在すると言われている。今回，我々は，慢性肺気腫患者に対してツムラ柴朴湯エキス剤を6ヶ月間投与し臨床効果と気道過敏性の改善に対する有用性を検討した。

〔対象・方法〕対象は慢性肺気腫患者14例（全例男性）であり，気管支喘息の合併は認められなかった。SAB（選択的肺胞気管支造影）で確定診断したこれら14例に対し，ツムラ柴朴湯1日7.5gを3回（朝・昼・夕）に分割し経口投与した。薬剤投与前4週間を観察期間とし，引き続き6ヶ月間長期投与した。患者に毎日肺気腫日誌を記入させ臨床症状を観察した。又，朝・晩の1日2回Wrightのmini-Peak Flow Meterを測定し日誌に記入させその改善具合も観察した。気道過敏性の測定は，投与前と投与後（6ヶ月後）にアストグラフ法にて行った。

〔結果〕(1)臨床症状としては，痰の回数と痰の量が有意に減少した。咳，喘鳴はあまり変化なかったが，息切れと夜間睡眠はやや改善傾向が認められた。(2)PEFRに対しては，投与，4,5,6ヶ月目にやや改善傾向が認められた。(3)投与前と投与6ヶ月後に測定した呼吸機能と動脈血ガスには有意の変化は認められなかった。(4)気道過敏性に関しては，Bronchial sensitivity (Dmin)は不変であったが，Bronchial reactivity (SGrs/Grscnt)の改善が認められた。

〔結論〕慢性肺気腫患者に対するツムラ柴朴湯の長期投与は，臨床症状及び気道過敏性の改善に対して有用であると思われた。